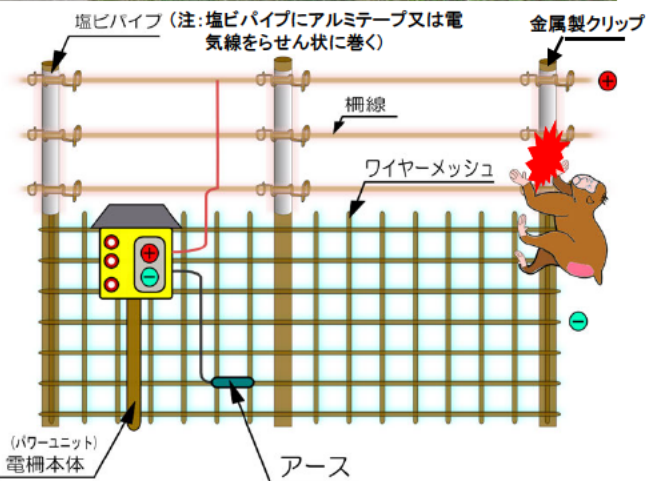


通電式支柱を用いた電気柵（おじろ用心棒）によるサル防止効果

三重県農業研究所

通電式支柱を用いた電気柵（おじろ用心棒）



ニホンザルによる農作物被害対策の課題

- 農作物被害は深刻化
- 人口や地形により追い払いが困難な農地も多い
- サルにも効果がある防護柵はあまり普及していない

集落のエサ資源量を低減するには、侵入防止効果が高い柵を普及させる必要がある

そこで!!

おじろ用心棒

- 兵庫県香美町で考案
- 設置者のアンケート等ではサルにも効果が高い結果（兵庫研森林動物研究センター）

- 技術普及には防御効果やサルの行動変化など多方面での検証が重要

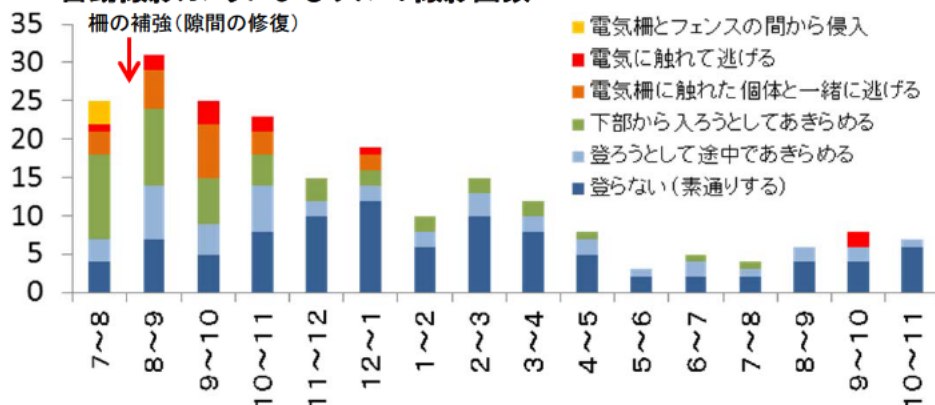
通電式支柱を用いた電気柵（おじろ用心棒）のサル侵入防止効果と、それに伴うサルの行動変化を考察する

方法

- サル被害が多発する菜園にH23.7～H24.10（継続中）にかけ、おじろ用心棒を設置
- 柵の周辺に自動撮影カメラを設置し、15ヶ月連続撮影
- 撮影されたサルの進歩行動や回数を分析し、効果を検証する

結果

自動撮影カメラによるサルの撮影回数



- 菜園への接近回数は、設置直後の8月をピークに徐々に減少しはじめ、1年後の7～9月では前年の1/5程度となった。
- 通電式支柱を用いた電気柵（おじろ用心棒）はサルの進入防止効果が高いことが確認できた。
- 侵入行動をとるサルの比率も減少した。



■ 電気柵に触れて逃げる



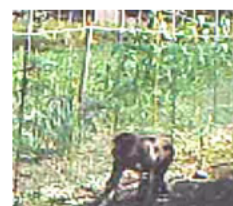
■ 電気柵に触れた個体と一緒に逃げる



■ 下部から入ろうとしてあきらめる



■ 登ろうとしてあきらめる



■ 素通りする